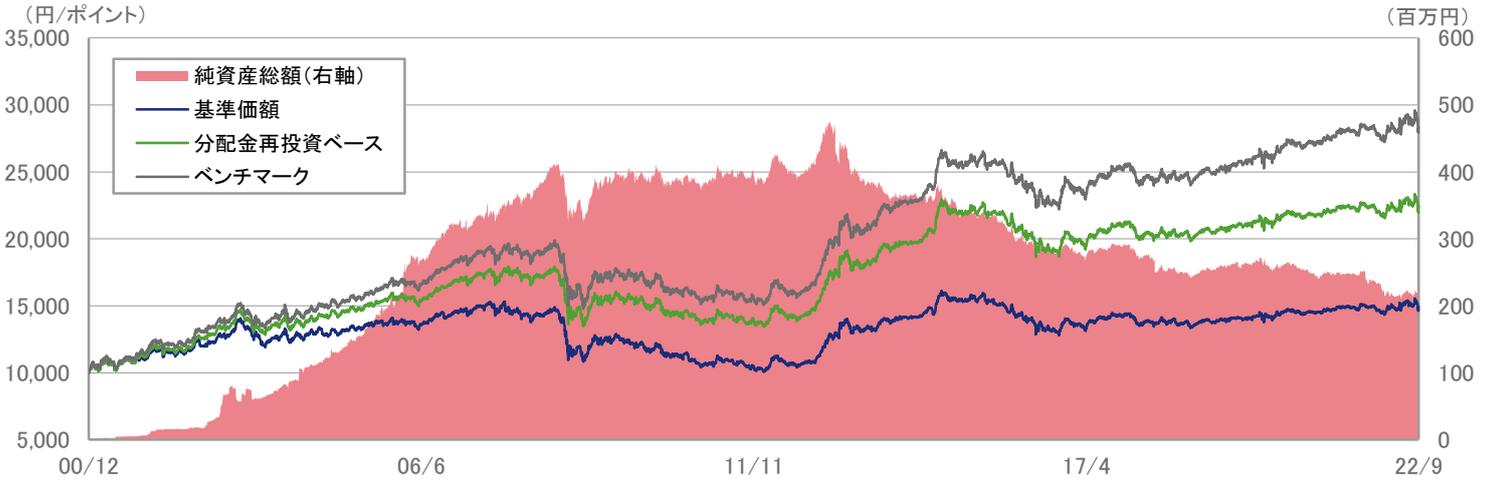


■ 基準価額・純資産総額の設定来推移



※1 分配金再投資ベースは分配金(課税前)を再投資したものと計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。
また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。
※2 ベンチマークの設定来推移は、設定日を10,000として指数化したものです。
※3 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

■ 設定来の運用実績

	基準価額 (分配金再投資)		ベンチマーク (FTSE世界国債インデックス(除く 日本、当社円換算ベース))		差異 ①-② (%)
	(円)	①騰落率(%)	(ポイント)	②騰落率(%)	
当月末	22,419	-	130,077	-	-
過去1ヵ月	22,611	-0.85	131,430	-1.03	0.18
過去3ヵ月	22,801	-1.67	132,579	-1.89	0.21
過去6ヵ月	22,412	0.03	129,775	0.23	-0.20
過去1年	22,218	0.91	128,115	1.53	-0.63
過去3年	20,980	6.86	117,409	10.79	-3.93
設定日来	10,000	124.19	45,871	183.57	-59.38

※1 基準価額騰落率(分配金再投資)は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金(課税前)を再投資した場合の騰落率です。
また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。
※2 基準価額騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

■ 基準価額と純資産総額

	当月末	前月末	前月末比
基準価額 (円)	14,929	15,057	-128
純資産総額 (百万円)	217	216	+0

※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

	基準価額 (円)	日付
設定来高値	16,117	2014年12月8日
設定来安値	10,000	2000年12月22日

※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。
※2 設定来高値及び設定来安値は分配落ち後の基準価額で、該当した日付が複数日ある場合には、その初日を表示しております。

■ 運用資産構成比率

ファンド	比率(%)
外国債券	98.5
短期資産等	1.5
合計	100.0

※1 比率はベビーファンドの実質組入比率(純資産総額比)です。
※2 短期資産等には、コール、CD、CP、現先、未収金、未払金等が含まれます。

■ 分配実績

決算年月日	分配金 (課税前) (円)
2021/10/18	0
2020/10/16	40
2019/10/16	100
2018/10/16	110
2017/10/16	130
2016/10/17	110
設定来合計	5,259

※ 1万口当たりの実績です。

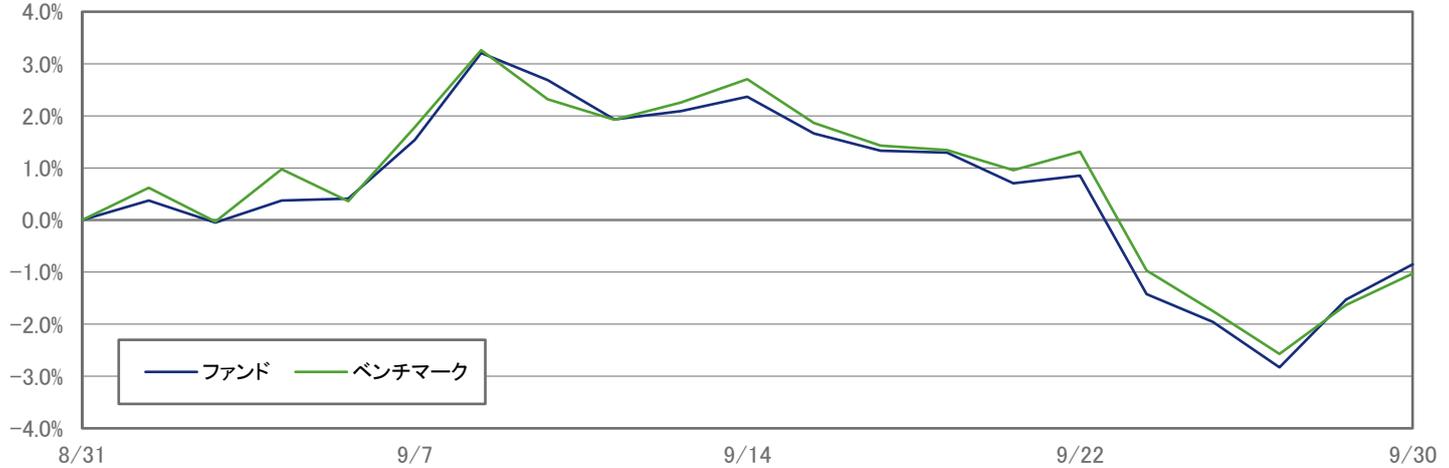
■ 運用概況

当月末の基準価額は、14,929円(前月比-128円)となりました。
また、税引き前分配金を再投資した場合の月間騰落率は-0.85%となり、ベンチマークの月間騰落率は-1.03%となりました。

<運用担当者のコメント>

■ 9月の市場動向と運用状況

当月のパフォーマンス推移



※ 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

<参考/基準価額の要因分解>

	(単位:円)	(単位:%)
	基準価額	月次騰落率
2022年9月30日	14,929	-
2022年8月31日	15,057	-
増減	-128	-0.85
債券要因	-582	-3.86
キャピタル	-603	-4.00
うち現物	(-603)	(-4.00)
うち先物	(-)	(-)
インカム	21	0.14
為替要因	470	3.12
小計	-111	-0.74
その他要因	-17	-0.11
要因合計	-128	-0.85

※ 上記の要因分解は、主要項目別に寄与度を概算した参考値です。
※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

市場動向

米国金利は、堅調な米国経済指標や9月米連邦公開市場委員会(FOMC)においてタカ派な政策金利見通しが示されたことを背景に上昇しました。独国金利は、9月欧州中央銀行(以下「ECB」という)理事会における政府預金に対する付利金利の上限引き上げを受けた短期金融市場への大規模な資金流入懸念の後退に加え、英国の減税を含む大規模財政政策の発表を受けた英国長期金利の上昇を背景に上昇しました。為替については、ドルは、日米の9月金融政策決定会合を経て金融政策格差の拡大が一段と意識されたことを背景に円に対してドル高となりました。ユーロは、ECB高官によるタカ派な発言や金融政策格差の拡大が意識されたことによる主要通貨に対する円の弱含みを背景に円に対してユーロ高となりました。

運用担当者のコメントは、受益者向けに投資信託の運用状況を開示するため、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー(以下、ウエリントン社)から提供された情報を元に、農林中金全共連アセットマネジメントが作成したものです。ウエリントン社からの情報は、海外市場の月末を基準として提供されており、ファンドの評価基準日とは一日異なります。また、上記コメントは、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

ファンド・レビュー

9月のファンドのパフォーマンスは前月比-0.85%、ベンチマークのパフォーマンスは前月比-1.03%、ファンドのベンチマークに対する相対パフォーマンスは+0.18%となりました。

当ファンドが組入れているマザーファンド(ドルベース)の9月のパフォーマンスをベンチマークと基準を揃えて比較すると、ファンドのパフォーマンスは以下の要因から、ベンチマークを上回りました。

- (+) デュレーション戦略の寄与はプラス寄与となりました。ドイツ国債や英国国債をアンダーウェイトとしたことは、インフレ率が高止まりする中、主要中央銀行の金融引き締め姿勢を背景に世界的に国債利回りが上昇したため、プラスに寄与しました。一方、オーストラリア国債をオーバーウェイトとしたことは、国債利回りの上昇を受けてマイナスに寄与しました。
- (+) 通貨戦略の寄与はプラス寄与となりました。米ドルに対して英ポンドをアンダーウェイトとしたことは、軟調な経済と高インフレ下において、英政府が国債発行を財源とした大規模財政政策を発表したことを背景に英国の財政に対する懸念が強まり、英ポンドが下落したことを受けてプラスに寄与しました。
- (0) 国別配分戦略の寄与は中立となりました。
- (0) イールドカーブ戦略の寄与は中立となりました。
- (-) 信用戦略の寄与はマイナス寄与となりました。投資適格社債の選別的な保有は、主要中央銀行の金融引き締め姿勢やユーロ圏経済の先行き懸念、英国財政の持続可能性に対する懸念を背景にスプレッドが拡大したことから、マイナスに寄与しました。

■ 今後の市場見通しと運用方針

■ 世界の中央銀行は、たとえ雇用と成長を犠牲にしても、高止まりするインフレを抑制するとの姿勢を強めています。一方で政策立案者にとっては、通常、金融システムの安定が通貨や物価の安定よりも重要視されます。経済成長よりもインフレ抑制を優先する姿勢が不十分な場合、インフレ率の上昇を招きますが、エネルギー価格上昇を受けて減退する需要を支えするための拡張的な財政政策は中期的なインフレ見通しを押し上げる可能性があります。金融引き締めと財政拡張という矛盾したポリシーミックスに対して、金融市場は厳しい反応を示しています。世界的に流動性が縮小しタームプレミアム(期間に伴う上乗せ金利)が上昇する中、高水準の債務を抱えるユーロ圏周辺国は不安定な状況に陥っています。欧州は、ロシアへのエネルギー依存度を下げるために代替先の調達を急ぐとともに、天然ガスの貯蔵推進と配給制によるガス消費の抑制によって、今冬の最悪シナリオは回避できるものと見込みます。中国や一部のアジア太平洋地域の景気は、不動産セクターが問題を抱えていることや、外需依存度の高い製造業セクターは先進国の需要減少を背景に低迷が見込まれるため、不安定な回復軌道を辿ると想定します。こうした状況の中、ユーロ圏の国債(コア国および周辺国)、英国国債のデュレーションをアンダーウェイト、米国国債、オーストラリア国債、ニュージーランド国債をオーバーウェイトとすることを検討します。通貨別では、メキシコ・ペソをオーバーウェイト、ユーロや英ポンドについては引き続き慎重姿勢を維持することを検討します。

■ 債券:
【北米】金融引き締めの影響は金融環境と住宅市場において顕在化してきていますが、インフレ率を低下させるには更なる引き締めが必要です。米連邦準備理事会(以下「FRB」という)はインフレ抑制に成功すると想定しますが、経済的な代償は高くつく見えています。歴史的に見ると住宅需要は依然高水準を維持していますが、住宅セクターは金利感応度が高く、足許の需要は冷え込んでいます。インフレと労働市場の過熱が継続しており、逆資産効果が顕在化するには時間を要するため、金利上昇に伴う経済への悪影響を明確に確認するまでFRBは金融引き締めに継続すると想定されます。個人退職勘定(IRA)やインフラといった投資支出は更に減速し、ドル高と軟調な世界経済が米国企業の収益を圧迫すると見込みます。こうした状況を鑑みると、米国の長短金利差の縮小はトレンドの終焉に近づいていると考えられます。ターミナルレート(利上げ到達点)は5%程度まで上昇する可能性があるものの、FRBはインフレ鎮静化や失業率増加の兆しを受けて利上げ姿勢を緩める可能性があります。こうした中、米国国債のデュレーションを機動的にオーバーウェイトとする方針です。

【ユーロ圏】ユーロ圏経済の成長見通しは悪化しており、テクニカル・リセッション(2四半期連続のマイナス成長)となる可能性が高いと考えられますが、ECBが強力に金融引き締めに推進しなければインフレ率が正常な軌道に戻るとは想定し難い状況です。ECBの対応が後手に回っていることやインフレ期待があまりにも目標水準から乖離していることを鑑みると、ECBは積極的な金融引き締めに継続せざるを得ない状況です。供給制約の影響が残る中、政府は家計支援を目的とした財政政策を通じて需要を後押ししようとしていますが、こうした取り組みは中期的なインフレ高止まりを招くと思われます。タカ派な金融政策に加え、追加の財政政策が実施されれば、タームプレミアムの上昇を受けて実質金利は上昇すると想定します。こうした中、ユーロ圏の国債(コア国および周辺国)のデュレーションをアンダーウェイトとする方針です。

【英国】英国の内需は非常に強い状況です。最善策は供給制約の改善ですが実現は困難なため、次善策として需要を押し下げる必要があります。英国経済が減速する中、物価安定のために需要抑制が必要な時期に、新内閣は積極的な財政政策を発表しています。財政拡大に対してイングランド銀行(BOE)が金融引き締めに迅速に実施できなければ大きなリスクとなります。市場とメディアの焦点は減税に向けられていますが、英政府が発表した財政政策の最大の目玉は、エネルギー価格の上限設定です。直近の年金危機によって、英国の多額の経常赤字と更なる拡大が意識される中、英国は外国資本を一層呼び込む必要がありますが、それには一段の高い英国国債利回り、英ポンド安の進行を伴います。英国政府が、短期的な経済成長にのみ焦点を当てるのではなく、潜在成長力を高めることを目的とした整合性のとれた政策方針を発表するまで、英国国債と英ポンドは非常に困難な状況に置かれると想定します。こうした中、英国国債のデュレーションをアンダーウェイトとする方針です。

■ 通貨:
【米ドル】地政学リスクの高まりやFRBのタカ派な金融政策、世界的な景気後退懸念は、米ドルを下支えすると見込まれます。また持続的なインフレ上昇を受けて、主要先進国の中央銀行は通貨安を避けるため、スイス銀行のように為替介入を行う可能性が想定されます。一方、欧州や英国対比でのインフレ減速度合いやFRBの金融引き締めペース如何では米ドル安につながるリスクがあります。こうした中、米ドルについてポジティブな見方を維持していますが、米ドル以外のポジションを積み上げた結果として、足許ではアンダーウェイトとしています。

【ユーロ】FRBの利上げペース減速やウクライナ情勢に関してのポジティブなニュースがあれば、短期的にはユーロ高となる可能性があります。債券市場は、財政や政治に対するより高いリスク・プレミアムを織り込むと見ており、長期的にもユーロ高に作用すると考えられます。しかしロシアの天然ガス供給停止にかかるリスクを考慮して、足許ユーロについてはネガティブな見方を維持しています。

【英ポンド】低成長、高インフレ、制度的な不確実性を背景に、英ポンドについては中期的にネガティブな見方をしています。こうした中、英ポンドをアンダーウェイトとする方針です。

※運用担当者のコメントは9月末時点のものです。また、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

運用担当者のコメントは、受益者向けに投資信託の運用状況を開示するため、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー(以下、ウエリントン社)から提供された情報を元に、農林中金全連アセットマネジメントが作成したものです。ウエリントン社からの情報は、海外市場の月末を基準として提供されており、ファンドの評価基準日とは一日異なります。また、上記コメントは、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

<マザーファンドの運用状況>

■ 国別組入比率とデュレーション

国名	① 組入比率 (%)		② 修正デュレーション(年)	
	ファンド*	ベンチマーク	ファンド*	ベンチマーク
米国	54.0	52.4	5.97	6.07
カナダ	4.5	2.1	5.11	7.13
イギリス	3.3	4.2	12.79	11.06
ユーロ	29.4	33.1	6.96	7.27
ドイツ	3.7	6.3	8.82	7.35
フランス	7.8	8.6	7.03	7.53
アイルランド	0.6	0.6	5.53	7.90
イタリア	7.5	7.5	5.87	6.35
オーストリア	0.8	1.2	11.55	8.37
オランダ	2.9	1.5	6.64	8.14
スペイン	3.7	5.0	6.28	6.89
フィンランド	0.5	0.5	7.68	7.74
ベルギー	1.9	1.9	8.32	8.67
ポルトガル	-	-	-	-
スウェーデン	0.2	0.3	8.37	5.32
ポーランド	0.4	0.4	3.35	3.62
デンマーク	0.3	0.4	11.67	8.10
ノルウェー	0.2	0.2	5.49	4.61
オーストラリア	1.8	1.5	8.60	6.93
シンガポール	0.7	0.4	4.42	7.51
マレーシア	-	0.5	-	7.12
メキシコ	0.7	0.8	5.78	4.71
イスラエル	0.4	0.4	6.47	6.18
中国	2.2	3.3	7.41	5.65
ニュージーランド	0.2	-	13.02	-
その他の国	0.3	-	2.33	-
債券合計	98.6	100.0	6.53	6.69
その他	1.4	-	-	-
合計	100.0	100.0	-	-

※ 比率は純資産総額対比です。

■ 組入上位10銘柄

順位	銘柄名	国名	通貨	クーポン(%)	償還日	組入比率(%)	分類
1	T-NOTE 0.75 260831	アメリカ	米ドル	0.750	2026/8/31	13.8	国債
2	T-NOTE 2.5 240515	アメリカ	米ドル	2.500	2024/5/15	8.8	国債
3	T-NOTE 2.625 270531	アメリカ	米ドル	2.625	2027/5/31	4.7	国債
4	BTPS 0 260401	イタリア	ユーロ	0.000	2026/4/1	2.9	国債
5	SPA GOVT 0 260131	スペイン	ユーロ	0.000	2026/1/31	2.2	国債
6	T-NOTE 2.875 320515	アメリカ	米ドル	2.875	2032/5/15	2.0	国債
7	T-BOND 2.0 510815	アメリカ	米ドル	2.000	2051/8/15	2.0	国債
8	T-BOND 4.5 360215	アメリカ	米ドル	4.500	2036/2/15	1.9	国債
9	OAT 0 260225	フランス	ユーロ	0.000	2026/2/25	1.7	国債
10	T-BOND 3.0 480215	アメリカ	米ドル	3.000	2048/2/15	1.7	国債

※ 比率は外国債券現物対比です。

■ 通貨別組入比率

(%)

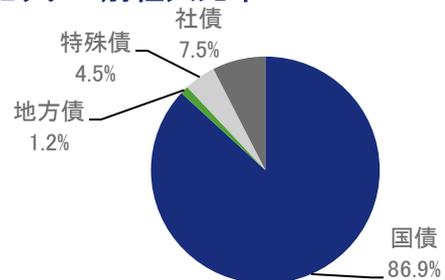
通貨	ファンド*	ベンチマーク	差
米ドル	52.5	52.4	0.1
ユーロ	32.5	33.1	-0.6
英ポンド	4.0	4.2	-0.2
カナダドル	2.2	2.1	0.1
その他(円除く)	8.4	8.3	0.1
合計	99.5	100.0	-0.5

※ 比率は純資産総額対比です。

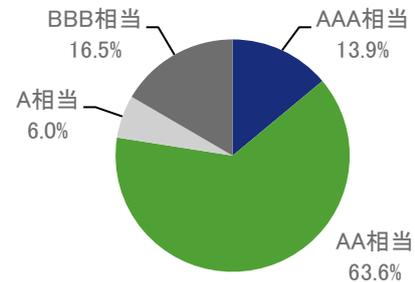
■ 保有債券の属性

	ファンド*	ベンチマーク	差
平均利回り(%)	3.74	3.62	0.12
平均クーポン(%)	1.58	1.92	-0.34
平均残存期間(年)	8.77	8.97	-0.20
修正デュレーション(年)	6.53	6.69	-0.15

■ セクター別組入比率



■ 格付別組入比率



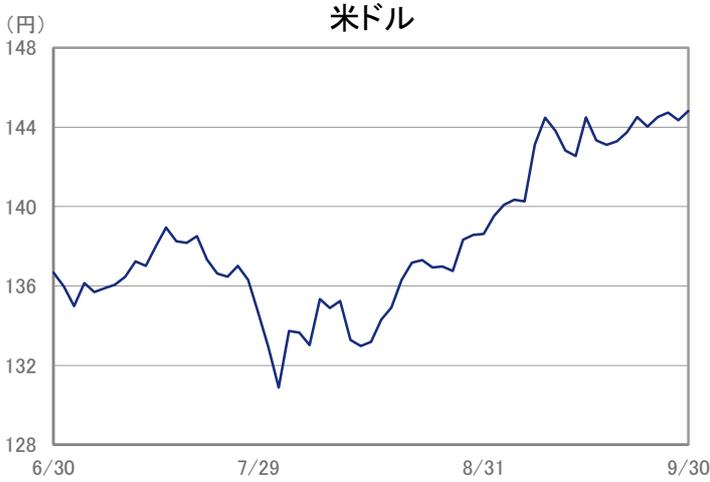
※1 比率は外国債券現物対比です。

※2 格付けは、原則としてS&P社、Moody's社のうち低位のものを採用しています。

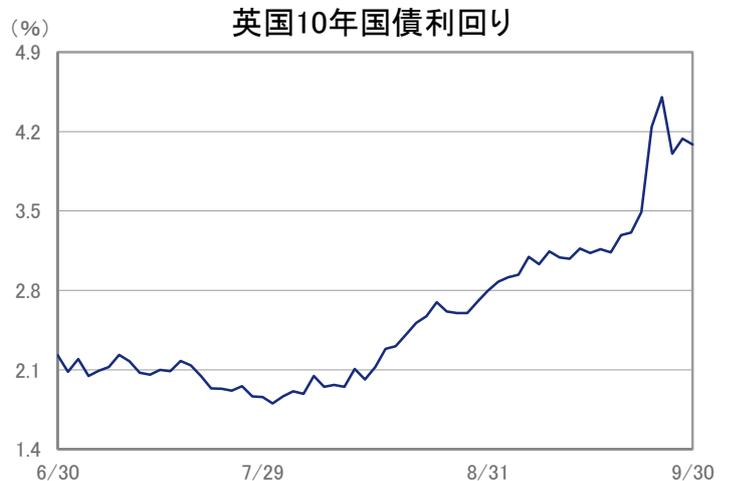
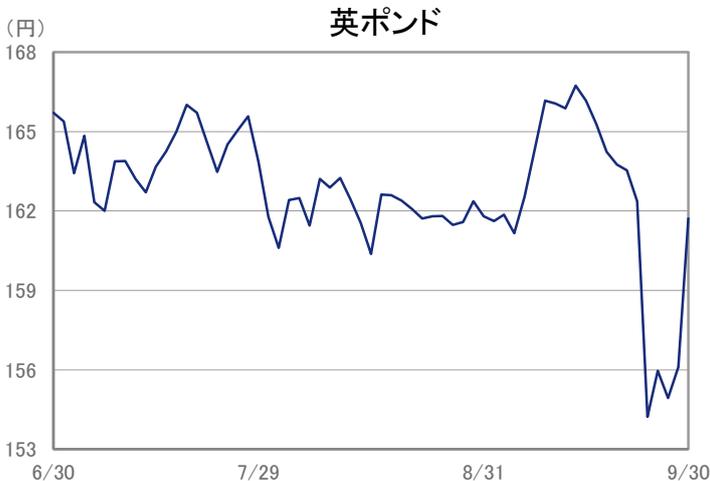
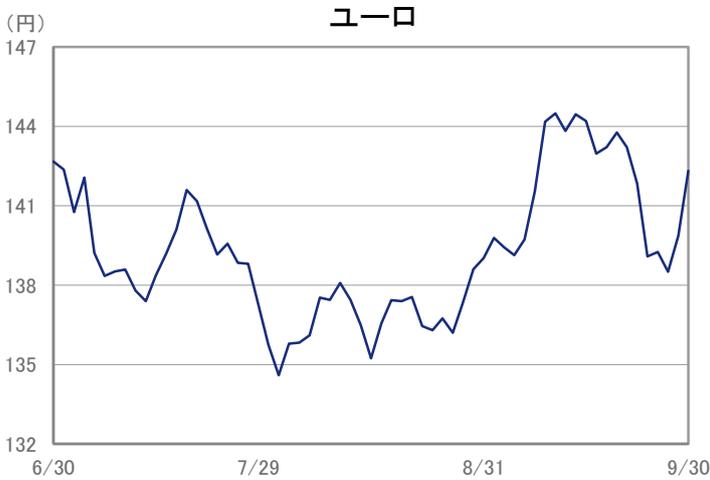
組入銘柄数: 171銘柄

<参考> 市場動向(マーケット指標の推移)

為替相場



債券市場



当ファンドは、公社債などの値動きを生じる証券(外貨建資産には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は日々変動します。従って元金が保証されるものではありません。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくこととなります。当資料は当社が信頼できると判断したデータにより作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。投資信託は貯金(預金)保険制度の対象ではありません。当資料は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

商品の特色

- 当ファンドは、JA海外債券マザーファンドを主要投資対象とし、マザーファンドを通じて、日本を除く世界各国の公社債を中心に投資を行います。
- マザーファンドの運用にあたっては、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー、ウエリントン・マネージメント香港リミテッドおよびウエリントン・マネージメント・インターナショナル・リミテッドに外貨建資産の運用および為替取引の指図に関する権限を委託します。
- 当社が円ベースに換算したFTSE世界国債インデックス(除く日本)をベンチマークとし、ファンダメンタルズ分析と計量分析を併用した手法により運用を行い、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。
- ポートフォリオ全体の平均格付(保有している有価証券に係る信用格付けを加重平均したもの)は、原則としてA格以上を維持することとします。外貨建資産については、原則として対円為替ヘッジは行いません。

■ お申込みメモ

購入単位	<通常の申込> 販売会社が定める単位 <確定拠出年金制度に基づく申込> 1円以上1円単位
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
購入代金	販売会社の指定する日までにお支払いください。
換金単位	1口単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から、信託財産留保額を差し引いた価額となります。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して5営業日目から支払いを行います。
申込締切時間	原則として午後3時までとなります。(ただし、受付時間は販売会社により異なる場合もありますので、詳細につきましては販売会社までお問い合わせください。)
申込受付不可日	ニューヨーク証券取引所の休場日またはニューヨークの銀行の休業日には、購入・換金の申込受付を行いません。(詳しくは、販売会社または委託会社にお問い合わせください。)
換金制限	信託財産の資産管理を円滑に行うために大口の換金には制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止等により購入・換金の申込受付が中止または取消しとなることがあります。
信託期間	無期限(設定日: 2000年12月22日)
繰上償還	受益権の総口数が5億口を下回った場合などには、繰上償還となる場合があります。
決算日	毎年10月16日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎年10月の決算時に分配を行います。販売会社との契約によっては、税引き後、無手数料で再投資が可能です。(年1回)
信託金の限度額	1兆円を限度とします。
公告	委託会社が投資者(受益者)に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	毎年10月の決算時及び償還後に交付運用報告書を作成し、販売会社より知れている投資者(受益者)に対して交付します。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。なお、税制が改正された場合等には変更される場合があります。

※ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ニューヨーク証券取引所の休場日またはニューヨークの銀行の休業日には、購入、換金のお申込みの受け付けを行いません。金融商品取引所や外国金融商品市場における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときには、購入、換金のお申込みの受け付けを中止すること、およびすでに受け付けた購入、換金のお申込みを取り消す場合があります。

■ 委託会社、その他の関係法人

- 委託会社 : 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第372号
一般社団法人 投資信託協会会員/一般社団法人 日本投資顧問業協会会員)
信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。
: ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー、ウエリントン・マネージメント香港リミテッドおよびウエリントン・マネージメント・インターナショナル・リミテッド(投資顧問会社)
当ファンドの直接の関係法人ではありませんが、委託会社よりJA海外債券マザーファンドにおける外貨建資産の運用および為替取引の指図に関する権限の委託を受けて投資判断・発注等を行います。
- 受託会社 : 三菱UFJ信託銀行株式会社(再信託受託会社: 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)
追加信託に係る振替機関への通知等、信託財産の保管・管理・計算等を行います。
- 販売会社 : 以下をご覧ください。
ファンドの募集の取扱い・販売、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

販売会社等につきましては、以下の照会先までお問い合わせください。

◆ 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社
ホームページ : <https://www.ja-asset.co.jp/>
フリーダイヤル : 0120-439-244(受付時間: 営業日の午前9時~午後5時)

お申込、投資信託説明書(交付目論見書)のご提供は

主なリスクと費用

下記の事項は、この投資信託(以下、「当ファンド」という。)をお申込みされる投資家の皆様にあらかじめ、ご確認いただきたい重要な事項としてお知らせするものです。

お申込みの際には、下記の事項および投資信託説明書(交付目論見書)の内容をよくお読みください。

■ 当ファンドに係るリスクについて

当ファンドは、主に日本を除く世界各国の公社債を実質的な投資対象としますので、海外金利の上昇による組入公社債の価格の下落や、組入公社債の発行会社等の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資を行いますので、為替の変動により損失を被ることがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「金利変動リスク」「為替変動リスク」「信用リスク」などがあります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

■ 当ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用	
購入時手数料	<p><通常の申込> 購入申込受付日の翌営業日の基準価額に、販売会社が個別に定める手数料率を乗じた額です。ご購入時の手数料率の上限は1.65%(税抜1.5%)です。</p> <p><確定拠出年金制度に基づく申込> 無手数料</p>
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に0.20%を乗じた額を、換金時にご負担いただきます。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用	
運用管理費用(信託報酬)	毎日、純資産総額に年1.32%(税抜1.20%)を乗じた額を計上します。毎計算期間の最初の6ヵ月終了日及び毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。
その他の費用・手数料	<p>監査費用は、毎日、純資産総額に年0.0033%(税抜0.003%)を乗じた額を計上します。毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。</p> <p>有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等は、その都度信託財産中から支払われます。</p> <p>※運用状況により変動するため、事前に料率、上限額等を表示することができません。</p>

※ファンドの費用の合計額は、投資者の皆様がファンドを保有する期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

留意事項

- 当資料は、農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(以下、「当社」といいます。)が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は当社が信頼できると判断したデータ等により作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。市場環境等の見直しにつきましても、その確実性を保証するものではありません。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。
- 当ファンドは、公社債などの値動きの生じる証券(外貨建資産には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は日々変動します。したがって、元金および収益分配が保証されるものではなく、投資元本を割り込むことがあります。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくこととなります。
- 投資信託は預貯金や保険商品とは異なり、預金(貯金)保険機構、保険契約者保護機構の保護対象ではありません。投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。
- ご購入の際は、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受取りいただき、詳細をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。
- FTSE世界国債インデックス(除く日本・当社円換算ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックス、FTSE世界国債インデックス(米ドルベース)をもとに、FTSE Fixed Income LLCの承諾を得たうえで、当社が独自に円換算したものです。